

Let's SDGs with FUROSHIKI ふろしきでSDGs！

ふろしき研究会 エコ〜るど京大 協力：京都超 SDGs コンソーシアム

令和3年度 助成金額 390,000円 主な実施場所 京都市内、日本全国

事業目的・概要—SDGsをテーマにしたふろしきを通して循環型社会形成に寄与

日本伝統の象徴であるふろしきはSDGsの持続型資源循環社会の理念を体現した暮らしの布。リユース性、リデュース性があり、ごみ減量をもたらす。ふろしき製造の拠点である京都でSDGsをテーマに、ふろしきデザインコンテストの実施。応募、応募作によるデザイン原画展の開催、審査、表彰をオンラインで開催。昨年度実施した「ふろしきエコバッグを持とう！」を引き継ぎ、大学・商業施設を会場に、レジ袋削減に加え、SDGsへの理解を求める事業として展開する。

取組内容—SDGs ふろしきデザインコンテストの実施

- ・Web上でのコンテストの実施 募集、結果発表、表彰
- ・「SDG オンライン講座開講」・2021.10.30
- ・SDGs ふろしきエコバッグを持とうワークショップ
小学校、商店街、商業施設など6会場で実施
11/3～11/23 斗々屋、出町商店街、古川町商店街
京北町道の駅、安朱小学校、JR 駅前ポルタで実施

成果—日本伝統のふろしきによるSDGsの追求

世界共通の目標であるSDGsに向けた活動が拡大するなか、日本の生活用具であるふろしきを取り上げたことで17の目標への理解を促し、拡大することができた。

●幅広い層からの反響

応募作品は137点。4歳児など幼児、小学生から80歳代高齢層まで年齢層も幅広い応募があった。地域も京都だけでなく関西一円、首都圏からの応募があった。

●ふろしき製造の実現

ふろしき製造を実現したことで、経年的影響力を付与できた。活用事例も紹介ができる。

●協働とWEBによる事業展開の実現

ふろしき研究会だけではなく、エコ〜るど京大とのパートナーシップ、さらに京都超SDGsコンソーシアムの協賛による事業推進がもたらした成果は大きい。WEBの発信力、情報交換力を活用したことは今後の事業のモデルとなろう。



上：斗々屋 下：出町商店街



(団体名) ふろしき研究会 エコ〜るど京大

【代表者】 代表理事 森田田知都子 【主な活動地域】 日本全国

【ウェブサイト】 <http://furoshiki.life.coocan.jp>

【設立の目的】

日本伝統の暮らしの布、ふろしきを見直し現代生活での活用を提案。

ふろしきを通して日本の暮らしに根付く「もったいない」を大切に、環境活動を行い、持続型社会構築に寄与する。ふろしきに象徴される日本文化を次世代につないでいく。

【主な活動内容】

●環境活動 ふろしきの現代生活での活用を模索し、レジ袋に代わるエコバッグとしての活用を提案するなど、環境活動を柱に、使い捨てない暮らしの啓発を行ってきた。環境イベントへの出展、環境をテーマにした出前講座への出向などを実施。2020年6月～11月「ふろしきエコバッグを持とう！（共催：京都市ごみ減量推進会議）事業を実施、11会場でワークショップ実施。693名の参加を得た。

●ふろしきをキーに、幅広いテーマで開催する実験的なミニイベント「ふろしきトーク」を年に3～4回開催。2022年2月開催で107回を迎える。テーマ「びんと語り合おう、びんを包もう」講師：吉川康彦氏（びんリユース推進全国協議会副代表）

●小中学校、高等学校、大学と学校をはじめ、自治体などに招かれ、体験講座に講師として出向いている。国際交流、障害者対象の講座などに出向く。

●ふろしき講座の講師を務める人材の育成 指導者養成講座を2000年から毎夏開催（昨年を除く）。修了後、全国で活躍中。

●独自テーマでのふろしき催しの開催

2011年7月「時を旅する風呂敷展」併催「戦争を染めた風呂敷展」

京都市・さいりん館、アートステージ 567

2019年2月「花、花、花を集めて風呂敷展」 東京都江東区深川江戸資料館

2020年8月「戦争を染めた風呂敷展」京都市・アートステージ 567

2021年7月「はばたけ！TOKYO わがまち風呂敷展」東京都江東区深川江戸資料館

2022年3月「豊田満夫コレクション ちりめん風呂敷展」開催

●キーワード：環境教育・地域づくり・世代間交流

ごみ減量のエコ地域づくり～学区内・学区外のネットワーキングを推進する～

桃山エコ推進委員会

2021年度 助成金額 135,000円 主な実施場所 伏見区桃山学区

事業目的・概要—学区内・学区外のネットワーキングを推進する

2021年度はこれまで蓄積してきた活動の経験をまとめ、ノウハウの発信を行いました。具体的には、ロケットストーブや生ごみ堆肥の「講師役」として、他地域に積極的に向かい、動画制作を行いました。

7年間にわたり取り組んできた地元密着型の環境教育に加え、地域や世代を超えた活動が評価され、令和3年度（第19回）京都環境賞 特別賞（エコ学区賞）を受賞することができました。

取組内容—地域内外と連携した環境教育

1. 小学校と連携した環境教育
2. 小学校で落ち葉を堆肥化
3. 生ごみ堆肥化と緑のカーテン
4. ロケットストーブの普及
5. 学区外のエコ活動の支援
6. 視察の受入と派遣

成果—学区内外での活動の広がり

●1. 小学校と連携した環境教育

7月に、桃山小学校5年生に対し出前授業を行い、京都市の家庭ごみ排出状況や生ごみ減量の必要性等を伝えました。

10月には、桃山小PTAとの共催で、親子対象の学習会を開催。コロナ禍で対面実施ができなくなったため、生ごみ堆肥の作り方をYouTube動画で発信し、オンライン学習会に初挑戦しました。

◆7/19 桃山小5年生出前授業@桃山小 80名参加

◆10/16 桃山小PTA対象学習会@オンライン 16名参加

●2. 小学校で落ち葉を堆肥化

桃山小では大量の落ち葉がごみとして捨てられていたため、2019年度に当会が学校へ提案し、堆肥箱を製作しました。

児童たちが清掃などで落ち葉を集め、当会で切り返し作業等の維持管理作業を行い、落ち葉ごみを減量することができました。

◆通年 落ち葉堆肥箱の維持管理作業@桃山小



▲7/19 桃山小学校5年生出前授業



▲桃山小PTAに発信したYouTube動画



▲7/26 落ち葉堆肥の切り返し作業

●3. 生ごみ堆肥化と緑のカーテン

生ごみ堆肥の講習会と相談会を開催しました。昨年度に引き続き、生活クラブ京都エルコープの依頼で堆肥づくり講座のアドバイザーも務めました。

緑のカーテンは、昨年度より20軒多い約120世帯で実施。また、栽培したパワーリーフの苗を上高野学区にお分けしました。

◆9/25 生ごみ堆肥作り講習会@桃山会館 19名参加

◆4/3、7/25、7/31 生ごみ堆肥づくり講座

(生活クラブ京都エルコープ主催) 計55名参加

◆11/6 生ごみ堆肥づくり相談会@桃山会館 4名参加

◆夏期 緑のカーテン育成@学区民自宅 120名参加



▲9/25 生ごみ堆肥作り講習会



▲10/30 久我の杜学区ロケットストーブ製作会

●4. ロケットストーブで剪定ごみ減量

他地域の依頼を受け、製作・実演ワークショップを開催しました。

◆4/11 山城ごはん製作会@木津川市鹿背山 18名参加

◆10/30 久我の杜自治連合会製作会@久我の杜小 15名参加

◆11/21 山城ごはん実演会@木津川市鹿背山 30名参加

◆11/23 西京区檜原製作会@鈴木モータース 8名参加

●5. 学区外のエコ活動の支援

上述のとおり、生ごみ堆肥やロケットストーブの活動で他地域のエコ活動を支援しました。

●6. 視察の受入と派遣

10/9に京都外国語大学の学生・教職員17名の視察を受入れました。また生ごみ堆肥化のさまざまな事例を学ぶため、7/18に木津川市、7/23梅津学区、10/8に立命館大学を視察しました。



▲10/9 京都外国語大学視察受入@桃山小

(団体名) 桃山エコ推進委員会

【代表者】 委員長 大倉 正暉

【主な活動地域】 伏見区桃山学区

【設立の目的】

- 1)伏見区桃山学区の住民が環境意識を高め低炭素社会をめざすエコ活動を地域ぐるみの輪に広げる。
- 2)桃山学区で各家庭と地域が一体となって地球温暖化対策、省エネ・ごみ減量への自発的な環境取り組みを進め、次世代に向けた持続的な活動推進の地域母体となることを企図する。
- 3)上記の目的を実現するため必要な情報や知識を活発に摂取・学習して相互交流し、地域から可能な環境取組の知恵を創造しつつ、目的に沿うさまざまな地域の個人、団体、市民グループと連携して多様なエコ活動を進めることをめざす。

【主な活動内容】

- 桃山地域の各自治会・町内会より参加する推進委員により総会を構成。役員会が会活動を運営。
- 桃山地域での自然環境・生活環境の保全と改善、持続可能な次世代社会に向けた啓発・学習・実践。
- ごみ・排水・排気に関する3Rの取組と創意工夫。
- 地域分散型の自然・再生可能エネルギーの普及と、エネルギー利用適正化・節約使用の実践的活動。
- 自然エネルギー利用ツールの実演・手作り教室、環境を汚染しない知恵と情報共有のための見学会、家庭での実践方法を知る学習会・イベント等の開催。

●キーワード：ペットボトル、多世代交流、コミュニティづくり

ペットボトル花風車や缶バッチ、廃材アートが創る多世代交流の場

NPO 法人 地域共生開発機構 ともつく

2021 年度 助成金額 25 万円 主な実施場所 京都市右京区嵯峨学区

事業目的・概要—ゴミ減量の意識の醸成と多世代交流のあるコミュニティの創生を行う

NPO 法人 ともつくが実施する地域づくり活動の一環である多世代交流イベントにおいて、ペットボトルや廃棄する布などを利用して行う活動です。具体的にはペットボトルでひまわり、百合などに似せた花風車を作成します。また缶バッチ作成や破棄する布を使用したオーナメント作成など、それらのイベントを通して多世代が交流するコミュニティ作りの推進を行います。同時にペットボトルや破棄する布など、ゴミ再利用に向けたレクチャーも行い、ごみ減量の意識の醸成も図っていきます。

取組内容—コロナ禍で実施できた活動は限られたが・・・

今回、ペットボトルの再利用、空き缶や廃棄する布などの活用、そしてゴミ減量の意識を高めるためのレクチャーなどを行うイベントを3回企画しました。

当初計画していたイベントや活動もコロナ禍で延期、中止になることもありましたが、ペットボトル風車のイベントは1回開催することができました。また、他の活動（おもちゃ病院の実施、木箱の作成）も細々と実施することができ、その時の休憩時間にショートレクチャーでゴミ減のプレゼンなどを実施しました。

成果—コミュニティとしての認知度の向上に寄与

●ペットボトル風車の作成

破棄されたペットボトルを学生がきれいに洗浄したものを持参して製作に取り掛かりました。ひまわりや百合などの花風車の作成は時間がかかるので、今回は事前に用意したコスモス（小さな風車）の作成を行いました。ペットボトルが花の形をした風車に変わることで「こんな使い方があるのか」と驚く参加者もいました。参加者は11名（内子供2名）で、それぞれに工夫をして自分なりの風車を作成していました。

●ごみ減量に向けた意識の醸成（レクチャー）

ペットボトル風車の作成がほぼ終了した後、風車の材料となったペットボトルやプラスチックゴミが環境にどのように影響しているのかのショートレクチャーを行いました。海やその他



の環境がペットボトルやプラスチックゴミにより具体的にどの程度汚染されているのかを数値で提示し、自分たちだけでなく子供世代、孫世代にどのように影響をしていくかの具体例をあげて提示したことは、参加者も真剣に聴講しており、ゴミに対する関心を強めたように感じました。



●多世代交流(コミュニティ)の芽生え&ゴミ減レクチャー

イベントを大々的に行うことができなかつた代わりに、来られる人は拒まずの姿勢で「おもちゃ病院」の取り組みとコラボさせていただきました。周辺住民の参加とおもちゃの修理に持ってきた子供達との緩やかなふれあいがありました。また、



おもちゃの修理風景



合間のショートレクチャー

(団体名) NPO 法人 地域共生開発機構 ともつく

【代表者】 河本 歩美

【主な活動地域】 京都市右京区嵯峨学区

【ウェブサイト】 <https://tomotsuku.jp/>

【設立の目的】

NPO 法人ともつくは、健康な人、障害を持たれている人、高齢者など全ての人達が地域社会で力を発揮し、役割を担いながら、生涯現役でいきいきと共生してゆくことを支援する。そのため、主に社会保障等の範疇で支援が十分に行き届かない人達に対しても、有償・無償のボランティア活動などを通じて、社会参加支援、自立支援、介護予防支援を行う。また、当事者の家族や地域住民、医療福祉従事者に対しても Well-being の理解を促進する啓発事業を行い、保健、医療、福祉の増進と地域又は世界のコミュニティの充実・世代間交流に寄与することを目的とする

【主な活動内容】

- 誰もが立ち寄ることができ、自分の得意な、もしくは好きな活動が行える場「クリエイティブハウス F 邸」を運営
- 認知症、介護予防に関する調査・研究・支援事業
- 有償・無償のボランティア活動ができる環境づくりに関するコンサルティング
- 地域づくりや高齢者の就労に関する実践・研究を行なっている方々を講師に招き、定期的な研修会を実施

エコおばちゃん 2021 年プロジェクト with Covid-19

Ladies Eco Circle プラムロード

2021 年度 助成金額 140,000 円 主な実施場所 下京いきいき市民活動センター

事業目的・概要—2021 年プロジェクト with Covid-19 「未知との遭遇」

コロナ禍、エコおばちゃん達のできる範囲でのエコ活動を模索しながら活動する 2021 年度です。第一に、with Covid-19 を踏まえて活動を継続していくことを念頭に、育まれつつある子ども達の環境の芽を大切に、SDGs の考えを軸に、環境学習会「エコシューレ」の活動力を少しずつ、パワーアップしていく。第二に、梅逕学区から梅小路校区、下京区へと繋がるエコな活動の拡大を図る。もちろん、梅逕学区でのエコ活動を基本にしながら、下京区役所での屋上緑化活動の経験を生かして、2021 年度は、下京いきいき活動センターにて「みどりのテラス」計画、テラス緑化チームメンバーとして、まちのオアシス創りを始めます。今までのエコな経験が豊富なメンバーも、今回の活動場所や活動自体は全く未知との遭遇です。新しい予感がする、エコな繋がりが始まる 2021 年度です。

取組内容—「エコシューレ」&「みどりのテラス」

◎「環境学習会」エコシューレ in 梅逕

- ・SDGs 学習会（子ども達とエコおばちゃん達の学び合い）
- 子ども達との直接活動中止⇒エコおばちゃん達の学習会
- ・EcoSummerFesta 中止 夏休み工作教室中止○○○○○
- ・学区清掃活動実施 「ありがとうの花」キャンペーン実施
- ・クリスマスリース作り中止 「地域を知ろう」お話会中止
- ・安心安全エコ絵画展実施 梅逕分団器具庫⇒ふれあいサロン
- ・広報誌「Umeko-ji Eco Schule」製作



◎「みどりのテラス」計画 in 下京いきいき市民活動センター

- ・「月一集う」ミーティング実施 by テラス緑化チーム
- ・土づくり⇒堆肥作り計画⇒コンポスト
- ・サツマイモのお試し栽培⇒お試し試食
- ・大根のお試し栽培⇒切り干し大根の試し干し
- ・来館者も心和む「ありがとうの花」キャンペーン
- ・エンドウ豆&じゃが芋のお試し栽培



成果—「エコおばちゃん活動 with Covid-19」

●梅逕学区での小さな活動「エコシューレ」

この間、「エコシューレ」活動は、子ども達とは「remote（リモート・間接的）」になってしまうが、先を考えて、エコおばちゃん達が環境について勉強する充電期間として、次年度に備えて少人数でミーティングを始める。現在、「みどりのテラス」を含む広報誌「エコシューレ」のアイデア編集中。

●梅逕学区での活動継続中

毎月のコミュニティー回収頑張っています。学区に参加していないワンルームマンション住人の方々の参加が上昇中。「限界集落」とも言える我が学区、この若い世代をいかに取り込むかで学区の将来が見えてくるような気がする。「ベランダで簡単生ごみコンポスト」等の紹介を考えてみたい。また、本年度は、安心安全エコ絵画展は消防器具庫のみならず、梅逕ふれあいサロンでも利用者に紹介しています。ただし、コロナ蔓延防止期間中はサロンが利用できず、只今残念期間です。

●下京いきいき市民活動センターでの「みどりのテラス」土づくり計画

下京いきいき市民活動センターの「みどりのテラス」の土づくりをしながら、お試し野菜作りを実施しています。この土の状態も試しています。使わなくなった土をいただきもしました。只今、土づくりは継続中です。



●花いっぱい「ありがとうの花」キャンペーン

夏と冬の学校閉鎖中、元梅逕中学校周辺清掃活動を下京中学校野球部と実施、枯れ葉については校内に設置のタヒロンを利用して堆肥化実施中。特に、年末清掃後には、廃校の玄関先に腐葉土を利用してパンジー苗を植えました。七条堀川交番花壇、下京の二つの小学校にも実施しました。



●「月一回集う」ミーティング at 下京いきいき市民活動センター

2021年6月19日にテラス緑化チームが集い、年間計画を立てました。「月一回集う」ミーティングを実施、情報交換をする。センター利用者や周辺地域の方とのコラボできるイベントを計画し、エコ仲間を増やす。但し、コロナ禍、今年は1年目のお試し期間となり、次のステップを考えることが出来ました。コロナ蔓延防止と重なり、中止となった行事も多々ありましたが、実施方法を考えた上で実施しました。この状況下、出来た行事について大事にしていきたいと思いました。

(団体名) Ladies Eco Circle プラムロード

【代表者】 中村吉江

【主な活動地域】 梅逕学区→梅小路校区→下京区

【ウェブサイト】 なし

【設立の目的】梅逕安心安全ネットワークごみ減量推進会議の女性会委員が軸となり、身近な環境問題を考え、子ども達によりよい地球環境を維持するためにも、次世代との連携を図り、その環境を私達ひとりひとりが意識できるような「持続可能なコミュニティー」の構築に努めるため、3R「リサイクル(Recycle)・リユース(Reuse)・リデュース(Reduce)」の実践と啓発を行うことを目的として設立。そして、1869年に学び舎としてスタートした「梅逕」で、現在の課題である「環境」について子ども達と地域住民が共に学習し、次世代に継続できるコミュニティーを構築する努力を継続しています。

【主な活動内容】

- 梅小路校区発エコシューレ(環境学習会) 休講中
- 「みどりのテラス」計画 in 下京いきいき市民活動センター
- 梅逕学区コミュニティー回収 毎月実施継続中
- エコおばちゃん「SDGs 学習会」 毎月小規模開催
- 下京中学校野球部と元梅逕中学校周辺清掃活動
- 広報誌「Umeko-ji Eco Schule」 年度未発行

●キーワード：環境教育・地域づくり・食品ロス削減啓発事業。

食品ロス削減のための出前授業

認定 NPO 法人セカンドハーベスト京都

2021 年度 助成予定金額 250,000 円 主な実施場所：京都市内各小中学校等

事業目的・概要—「知る」ことが行動の第一歩

食品ロス削減のために、京都市内の小中学校を中心に「知る」ことが行動の第一歩として出前授業（講座）を実施する。

現在日本では年間 570 万トンもの食品ロスが発生している。これは、国連 WFP の年間支援量を上回る。更に世界ではおよそ8億人が貧困状態にあるとされ、日本の子どもの7人に1人は相対的貧困の状態である。このように「食の不均衡」は看過できない問題だろう。

本事業では、食品ロス・貧困・環境問題・SDGsなどをテーマに広い視点で食品ロスについて考える。また、フードバンク活動についても扱う。授業（講座）を通して、食品ロス問題を考えるきっかけにするだけでなく、自分にできることを考えることで「自分ごと」として食品ロスを身近な問題として捉えてもらうことを目的としている。

取組内容—より広い対象に向けて

本事業は大きく出前授業（講座）の実施と「防災備蓄品活用レシピ作成」で構成される。

【出前授業】

今年度出前授業の広報用にチラシ作成を行った。作成したチラシは、京都市内の全小中学校、京都市ごみ減量推進会議会員様に郵送した。申し込みがあった学校（団体）に講師を派遣し、出前授業（講座）を実施した。

【防災備蓄品活用レシピ作成】

幣団体への防災備蓄品の寄贈問い合わせ件数が増加しているものの、提供先が確保できない場合は受け入れを辞退せざるを得ない実情がある。そこで、防災備蓄品の美味しい活用レシピがあれば各団体は喜んで受入、使用して頂ける。防災備蓄品の廃棄を防ぐことが目的の取り組みである。

レシピの作成は全日本調理師連盟 福井幸男様に依頼し、「大量調理用」の活用レシピを作成いただいた。今後、防災備蓄品の提供時にレシピを同封し、食料の有効活用に繋げていく。



成果—確実に想いが届いている

●チラシ作成

作成したチラシは、計258校(内33校の郵送費用は助成金より捻出)、206会員に郵送した。
見た目も工夫し、食品ロスを身近な問題として捉えてもらうことを期待している。

●出前授業実施件数と内訳

小学校計5校、10クラス、約171名、中学校1校、7クラス、約245名、
大学計3校、約276名、市民団体1団体、約23名を対象に実施した。

実施内訳:竹田小学校2クラス58名、向島藤ノ木小学校1クラス29名、
待鳳小学校2クラス58名、鞍馬小学校2クラス5名、洛南高等学校附属
小学校3クラス79名、洛南高等学校附属中学校7クラス245名、京都産
業大学1クラス25名、立命館大学1クラス220名、
市民団体等:京都友の会西山方面23名、京都府立大学1クラス31名。



●授業後のアンケート

授業を聞いた人からは、「食品ロスをなくそうと思った。」「食品ロスについてよくわかった。」「自分にもできることがあればいいと思っていたら、スクールフードドライブがあつて嬉しかった」「家族にも話そうと思った」などの感想があった。

食品ロスについての内容は、学校の授業でも扱っているが、実際に活動をしている人の話を聞くことは、印象に残りやすいと感じた。また、「インターネットなどでの調べ学習より深く知れた」との感想にあるように、食品ロスに関わる問題を広い視点で読み解く工夫をしていることも好評であった。

●授業の成果

待鳳小学校と京都友の会西山方面では、出前授業(講座)を受けて自分たちにできることとしてフードドライブを実施して頂き、多くの食品を集めて寄贈頂いた。

●レシピ作成

全日本調理師連盟 福井幸男様にレシピ作成依頼中

(団体名) 認定 NPO 法人セカンドハーベスト京都

【代表者】 理事長・澤田政明 【主な活動地域】 京都府、滋賀県、大阪府

【ウェブサイト】 <https://www.2hkyoto.org/>

【設立の目的】 この法人は、安全に食べられるにも関わらず今までは廃棄されていた食品を提供してもらい、支援を必要とする人々を支える団体等に提供する活動を通して、食品ロス削減とフードセーフティーネットを両立させる社会インフラの一つとなることを目指すとともに、地域社会における食を通じたコミュニティを支え、もって福祉及び社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

【主な活動内容】 ※アニュアルレポート(5期)も参照ください。

- ① フードバンク:未利用食品を福祉施設や福祉関連団体に提供
- ② 食のセーフティーネット:福祉事務所や社会福祉協議会などから生活困窮者の支援要請に基づいて支援食品を届ける
- ③ こども支援プロジェクト:給食のない長期休暇、低所得の子育て世帯を支える食品を届ける
- ④ フードパントリー:コロナ禍で経済的に困窮している方々に食品を提供
- ⑤ 食品ロス削減啓発事業:食品ロス削減のための出前授業を学校などで実施